

地域を支える 新たなモビリティサービスが 浪江町から 発進！



新たな「モビリティサービス」の実証実験が行われました

2月8日から20日まで、浪江町において、地域を支える新たな「モビリティサービス」の実証実験が行われました。「人を運ぶ」「荷物を運ぶ」移動サービスを検証するこの実証実験には、約50人の町民の皆さんが参加しました。

この実証実験では、電気自動車を用いた「巡回シャトル」と「スポーク車両」が使われました。「巡回シャトル」は、道の駅なみえと町内の主要な場所をつなぎ、「スポーク車両」は、郊外の参加者の自宅や郊外の施設と道の駅なみえを結びました。この2つの乗り物が道の駅なみえに集結することで、道の駅なみえが交通の接続拠点「モビリティハブ」となります。

「人を運ぶ」移動サービスでは、街角に立っている「デジタル停留所」や、スマートフォンのアプリを使って車両を呼ぶことができ、思い立ったときに町内を移動することができます。このような仕組みが、将来、浪江町を支える移動手段となり得るかどうか検証しました。また「その車両が無人車両に変わったら、という仮定を実際に検証するために、自動運転の「デモ走行」も実施し、多くの皆さんに体験してもらいました。

「荷物を運ぶ」移動サービスでは、店頭で購入またはインターネットで注文した商品の配達サービスを行いました。「人を運ぶ」移動サービスの車両を使い、人と荷物を同時に運ぶことで輸送の効率化を狙いました。

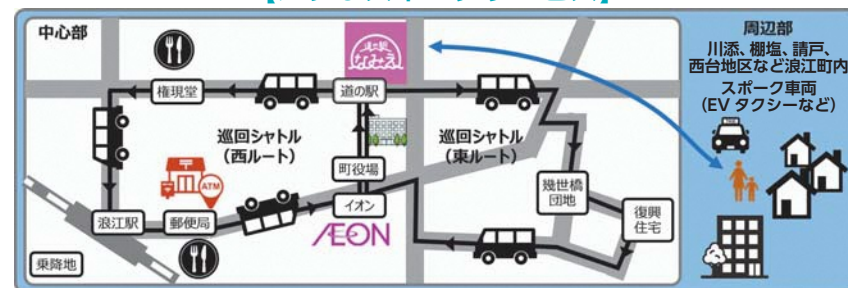
今回の実証実験を踏まえ、今後もさらに取組を進めていきます。町民の皆さんの生活を便利にし、さらには町の活性化につながる、「持続可能な公共交通」を作り上げていきます。

実証実験担当者に聞きました

人々が「出掛ける」ことは、街中を明るくし、経済を活性化し、新しい魅力も創出します。そのためには、誰もが簡単に利用できる移動サービスはとても重要な要素です。皆さんが道の駅に集い、友人と話したり、新しい出会いに遭遇したり。コロナ禍が続きますが、そんな楽しい日々が一日も早く訪れることを願ってやみません。それでは、また次の機会に、お会いしましょう！



【ハブ＆スポークサービス】



「スマートモビリティチャレンジ」について詳しくはこちら



①道の駅なみえに到着する「巡回シャトル」 ②予約は「顔認証」で ③乗降場所が表示された「デジタル停留所」 ④目的地に「タッチ」 ⑤実証実験中の3台が待機中 ⑥実際にサービスを体験 ⑦実証実験に参加するための説明会

問 企画財政課 TEL 0240 (34) 3657

「なみえスマートモビリティチャレンジ」が町内で始まりました

2月2日に、浪江町・双葉町・南相馬市の3市町および日産自動車株式会社をはじめとするパートナー企業8社と締結した「福島県浜通り地域における新しいモビリティを活用したまちづくり連携協定」に基づき、国が推進している新たなプロジェクト「スマートモビリティチャレンジ」が町内で始まりました。

近い将来訪れるであろう「自動運転社会」の実現を見据え、情報通信技術などを活用した新しい移動サービス「モビリティサービス」を実現することにより、町に暮らす人や町を訪れる人の移動に関する課題を解決し、地域活性化を目指すプロジェクトです。

「なみえスマートモビリティチャレンジ」では、町内に住む皆さんの生活環境の向上や、町を訪れる人の利便性を高めるため、新たな「町内公共交通」と「荷物配達サービス」の実現に向け、電気自動車を使用した実証実験が行われました。

【目指すサービス】

浪江に暮らす、浪江を訪れる、全ての人のための持続可能なモビリティサービス

簡単で、日常の足に使える、持続可能な「町内公共交通」

生活の基盤である買物を便利にする「荷物配達サービス」



予約は「デジタル停留所」を活用

停留所には、「デジタルサイネージ (電子看板)」を用いた「デジタル停留所」が設置され、「顔認証」を行うことで乗車予約ができます。「デジタルサイネージ」の最初の画面には、複数の乗降場所が表示されており、画面上で目的地に触れると、「アニメーション」で動く仕様にするなど、親しみを持って楽しんでもらうため、様々な工夫が施されています。